

第3回犬山市 ICT 活用教育研究委員会 議事録

1 附属機関の名称

犬山市 ICT 活用教育研究委員会

2 開催日時

令和4年2月18日（金） 午後4時から5時

3 開催場所

犬山市役所 2階 204会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

勝村 偉公朗、三輪 芳久、小室 武、鈴木 寛央、神谷 惇己、舟橋 正人

(2) アドバイザー

玉置 崇

(3) 事務局

滝 誠教育長、中村 浩三教育部長、大黒 澄子学校教育課長、高木 順二学校教育課主幹兼指導室長、野村 好哉学校教育課課長補佐、山田 敦貴学校教育課統括主査

5 議事内容

大黒課長：

定刻となりました。皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

只今より、令和3年度第3回、犬山市ICT活用教育研究委員会を開催させていただきます。進行は大黒が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに三輪委員長よりご挨拶をお願い申し上げます。

三輪委員長：

皆様こんにちは。

年度末が近くなってきました。今年度、情報端末を一人一台ということで入れてもらい、子供達も本当によく使っているなという感じを受けます。特に小学校の低学年でも、情報端末を使って何かやるということで、さっといろんなものを作ったり、まとめたりというような活動ができています。今になって本当にクロームブックでよかったなど改めて感じている次第です。

最近はコロナの関係で、出席停止を余儀なくされる保護者からも、オンラインで授業の様子を見せてもらえませんかという声も聞かれるようになってきて、保護者の方にも

浸透してきたなと思う。ただ、子供達は自分達で触って力をつけていくが、これからさらにこの情報端末を活かしていこうとすると、やっぱり教員用の情報端末がない限りはここまでだなと。やっぱり先生が持って、子供と繋ぐというのは、これから情報端末を学習に活かしていくためには必要じゃないかなと感じている。今日は、事務局からの報告や協議事項があります。

よろしく願いいたします。以上です。

大黒課長：

ありがとうございました。

この委員会は、犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドラインに基づき、公開とさせていただきます。特に傍聴者はございません。

なお、本日、小竹委員、加藤委員が、他の公務のため日程の都合がつかないとのことでご欠席との連絡を受けております。この会は犬山市ICT活用教育研究委員会規則の第6条により、半数の方がご出席で成立することをご報告申し上げます。

事前にお配りしました資料等の確認をさせていただきます。

- ・次第
- ・皆様の委員名簿
- ・資料1「冬休み期間中の学習用情報端末の利用状況について」
- ・資料2「eライブラリーアクセス数について」
- ・資料3「犬山市内の小中学生の皆さんへのアンケートのお願い」
- ・追加資料「学習用情報端末の利用した学習について」
- ・参考資料「YouTubeチャンネル閲覧、チャンネル別集計」

以上でよろしいでしょうか。

本日の終了時間ですが、概ね5時と見込んでおりますので、ご協力よろしく願いいたします。

では、以降は三輪委員長にお願いいたします。

三輪委員長：

次第に従いまして、只今から会議に入らせていただきます。

本委員会の会議録につきまして、事務局で作成したものに委員長の指名する2名以上の署名をいただくことになっています。名簿順で今回は、小室委員と舟橋委員に署名をお願いしたいと思います。

それでは、冬休み期間中の学習用情報端末の利用状況について、事務局の説明を求めます。

事務局（野村）：

《資料1説明》

三輪委員長：

このことについて何か質問はございますか。

玉置アドバイザー：

資料1の学校別アクセス数について教えてください。城東中学校で解除が5,480あったが。これは何を表しているか？

事務局（野村）：

こちらは城東中学校で、テストボードというアプリの問題を解かないと、インターネットに繋がらないようにしている。この問題を解いた数字になっている。

玉置アドバイザー：

アクセスして問題を解いてインターネットに繋がった数ですか。個別の接続許可をやったということですか。

事務局（野村）：

はい。

三輪委員長：

それでは続いて、eライブラリーアクセス数について、事務局お願いします。

事務局（野村）：

《資料2説明》

三輪委員長：

このことについて何か質問はございますか。

玉置アドバイザー：

質問ではなく、事前に送っていただいて見て、素晴らしいなとか、冬期中でこれだけ使っているということは、投資されただけの意味がある。三輪委員長が最初に言われたように、よく使っていることが分かる。県内でいろんな委員をやっているが、今やらないでいつやるのっていう、保護者から厳しい声が上がっている自治体もあるわけです。なんでやらないのかという中で、全く逆で、持ち帰ってアクセスさせているという、これだけの数字上がっているのは、本当に掛値なしですごいと思う。

特にウェブサービスのミートとか、ジャムボードというのは、要はテレビ会議ですよ。これを、冬休み中にやっているっていうことに興味がある。ジャムボードは共同学習のものです。これ、単に繋いだだけかもしれないが、いわゆる日常的に、これからの教育で共同学習のためにはジャムボードが有効だっていうことが出てきている。理想を言えば、例えば子供が係活動を休み中に、ジャムボードで誰かと誰かがやっていたなんていう事実であれば、本当にすごい。アクセス数が結構あるじゃないですか、ミ

ートの。テレビ、ネットを通じて、顔を見せ合ってしゃべっている。余談にしても、すごい事だなということを改めて、地についているなど思った。このことを伝えたいなど、しゃべらせてもらった。

舟橋委員：

城東小学校さんでいくと、12月はPC教室で1,700という数字があって、他所の学校と比べると、非常にここが多いが、eライブラリーを使って授業を、この月にたくさんやっているということですか

事務局（野村）：

ということだと思います。

舟橋委員：

其々の学校で、月によって多い月は、学校側からの何かで結構増えているということですか。

事務局（野村）：

そう考えられます。

三輪委員長：

それでは4の協議事項に移ります。まず学習用情報端末の利用アンケートについて事務局お願いします。

事務局（野村）：

《資料3説明》

小室委員：

ICTのアンケートのページに、この実証授業が行われたのが平成23年？

事務局（野村）：

平成22年です。

小室委員：

平成22年のアンケートは、質問のアンケート項目に関してはいいなあと思うが、環境がガラッと変わっている。例えば、皆、手元にある状態やパソコンを喜んでやるというのは、バックグラウンドが変わってくるので、数値で、こちらにはグラフで出ているが、こちらで比べるのではなく、このアンケートも定点観察を、指標として使っていた方がいいかなと。

事務局（野村）：

そのつもりでおります。今年度だけで終わるわけではなく、何年か続けていく中で、だんだんだんだん変わっていくというところも見ていきたいなと思っている。

小室委員：

そうすると数値が多分、年が変わって下がっていくかなと思うので。当たり前すぎるので。使えると嬉しいという時期が25年位だとすると、この数値と比べるのではなくて、定点観測的に使っていただけると良いのかなと思いました。以上です。

事務局（野村）：

ありがとうございます。

三輪委員長：

他どうでしょう。

勝村委員：

今のアンケートの項目について、単にやっぱりタブレット等を導入したことだけではなく、犬山市が目指す、学校教育等で目指す子供達の姿というのがあると思うので、事務局の先生はそれをよくご存知だと思うので、そういうものと照らし合わせた項目というものを、ぜひ含んでいただけると、犬山市が目指そうとしている子供達の姿にとって、このタブレットはどんなふうに役立っているのかということも、一つ大きな、なんというか、導入した意義や、これからの活用に向けての方向性を示すものになってくると思うので、そこら辺の項目も、今、仰られたように、犬山市独自の色みみたいなものが出る項目でもあると思うので、そんなところを検討していただけるといいかなと思う。

事務局（野村）：

ありがとうございます。

三輪委員長：

2点いいですか。一つは、この設問が、端末を使って楽しく学習することができたと思うのかとかいう、端末を使うことによってという、仮定なのかというのが一つと。

もう一つは、この選択肢、5択というのは、アンケートとしてはふさわしくない。特に今までと同じというのは、大変できた子が今までと同じと答えるのと、できないと思っていた子が今までと同じとか答えるので、何の意味もない。だから4択にすべきで、大変できたとできなかったというのは対象になっていない。大変できたのなら大変できなかっただし。だから、よくできた、少しできた、少しできなかった。よくできなかったとか、分からないが、ちゃんと選択肢は、左右対称にしてかないと。せっかくやるのに、もったいないなと思う。

事務局（野村）：

わかりました。ありがとうございます。

一応この一番頭の所に、端末を使った勉強について教えてくださいとは書いてはあるものの、やはりこの設問の中に、端末を使った勉強について聞いているということが分かるようにしたほうが良いということですね。

三輪委員：

授業全般のことを聞くのなら無くてもいいと思うが、端末を使うことによる勉強を調査したいのなら入れないといけない。

事務局（野村）：

わかりました。ありがとうございます。

鈴木委員：

ただこの質問内容だと、その授業者の授業次第とか、学級経営の学級状態に大きく影響されることが大きいのかなというふうに思って、単純に情報端末の成果っていうことがこの質問からだと分かりづらいのかなと思う。

特に低学年とかは漠然としか考えずにつけてしまうので、集計が大変だと思うが、情報端末を使ってどのような活動をしましたかと聞いて、それを全部書かせたりとか、どのような活動が印象に残っていますかとか、どのような活動が自分の勉強に役立ったと思いますかっていうのを、子供達に一部文章で書かせたりするほうが、今後その参考になる資料として残っていくと思う。

事務局（野村）：

ありがとうございます。

玉置アドバイザー：

今、委員の皆さん言われた通りで、これだけ見ると端末は関係ない質問のように思われてしまう。参考資料のいわゆる学びのイノベーションの所で、190ページからはコンピューターへの意識を入れた質問ですよね。

むしろ、コンピューターを使ったというようなことが全部入っており、こちらの方が参考になるのではないか。

三輪委員長に怒られるかもしれないが、組織がよく分かっていないので。教育委員会が作るのではなく、活用委員会の先生方が案を作っていくべき。なぜなら現場が分かっているわけだから。その方が適切な現場の事が分かった質問が作れて、それを事務局に協議して予備調査などをやるというのがいいと思う。事務局をどうのこうのとは言えないが、なかなか難しい。事務局は教員出身ではない。だから、活用委員会が案を作るといほうが、先生達にとってもいいアンケートにできると思う。

事務局（野村）：

ありがとうございます。

三輪委員長：

特に、委員会としては作る気はなかった。1年やって、情報端末はどうふうに、子供達の学習に重ねているかなということ、教育委員会が知りたいのだなと思って、そうですかという感じでしたが。

問題文は190ページのような、情報端末を使った勉強が楽しいですか、こっちのほうが分かりやすい感じはする。子供達は答えやすいかなという気がする。

事務局（野村）：

分かりました。190ページ191ページのところに書いてあるようなことを中心に考えていこうと、また犬山市独自の質問を何か一つ加えたいなと考えている。

神谷委員：

このアンケートを取って、楽しく学習することができたというのは難しい。

楽しく学習することができたっていうのは僕の中ではあんまりしっくりこない。楽しく学ぶことはすごくいいことだが、情報端末を使ってどんな学習になることが一番いいというか、何を目的として情報端末を使っているのか。それは楽しいだろうと思うが。

何か情報端末使って綺麗に見えて、だから何を楽しいとするか、自分で情報端末を使うことで、なかなか発表できない子も自分の考えが表現しやすいよとか、友達の影響も、一人一人が発表しているよりも、ぱっと画面上に全部出て分かりやすくてすごく楽しいとか。何か楽しい、ただ漠然と楽しい。まだ中学生を見ているからなのか、何かこのへんが違和感というか、何か変。「子供が楽しい」、もうちょっとその辺を、詳しくというか詳細にアンケート取った方が、鈴木先生が言われるように、任せるというのも一つだと思うが。僕はちょっと、これだけ見てひっかかった。何を集中して取り組むことができたのか、ちょっと漠然としている。僕も代案が出ないけれど・・・という感じがした。

三輪委員長：

野村さん、このアンケートの主たる目的は何ですか。

事務局（野村）：

先ほどお伝えしたが、子供達がどれだけ変化したというか、ICTを使って効果があったかどうかという所が一番見たい所になる。資料の191ページで、中学校対象の設問で、2番目、電子黒板や実物投影機などを使った学習は自分達生徒にとって分かりやすいと思いますか、という質問では、中学生に対しては、楽しいというよりはこの分かりやすかったかどうかを聞いている。また一番で、授業がスムーズに進むと思いますかというような設問もある。こういった所を、中学生に対しては聞いていきたいなと思っ

ている。それを聞くことによって、ICTがどれだけ活用されたかという結果が出てくるのではないかなと思うので、こういった所の、アンケートをしていきたいなと思います。

玉置アドバイザー：

アドバイザーとして、いろんな自治体に関わっているので、当然、エビデンスを出さないといけないとか、事務局さんが言われることよく分かる。だから、そういうものをどうやって、例えば議会等、市民に伝えてくかっていうことはいろんな手法がある。今、「楽しい」というのはなかなか難しい、楽しさって人によって違うから。

だからそういう数値的なアンケートではなく、ある市では端末が入るまで、入った後に授業がどう変わりましたか、と問いかけたところ、すごく調べ学習が増えたとか、友達とやりとりできるっていうようなそういう具体的なエピソードを出してまとめていくもの。他に、各学校で授業の典型的な例を出し合って刷新してく。数値的なグラフよりもそっちの方が説得力あるじゃないかという自治体もある。

今言われたように、三輪委員長は、あまりまとめる気はなかったというけれど……。こういうアンケートでどれだけ分かるかというのは、ある意味怖いところがあるので、1回、現場と事務局でどうしたらいいかを。これだけ税金使っているのに、やりまっただけではいけないってことはよく皆、事務局は分かっている。県教委にいた立場でいくと、どうしても作れと言われてアンケート出すが、現場になってみると、こんなアンケート何だと言って、腹立って。あるじゃないですか、三輪委員長、事務局にいたから、だから、それは嫌なんだよね。僕はICT委員も加わって作ったというものがないと。かなり本音でアドバイザーとして言っています。そうしないとせっかくのものができないので。本当にどうしたらエビデンスがきちっと出せるかというのを。長年やっていく方がいいから。単発で今年だけじゃなく、長く続けられて無理のないもの。

知っている例では、こういうアンケートというのはあまり知らない。どっちかといえどエピソード出すような。一番分かりやすいのは端末が入る前、入った後にどう変わったかに対して、中学生が結構きちっと文章で書いてきている。それを国がPRして、文科省の会議でも、中学生はこんなふうに端末入って授業が変わったというか自分の学び方が変わったと。こういった報告の方が「何%分かりやすくなった」よりはあるので、どうやってエビデンス出していくかっていうことを調べられたら本当にいいのではないかな。長くやれるものが良い。先ほど言われたように、新規性があって、ものすごく珍しい時はすごく高まる。

僕は附属行って授業やっていた時に、教育長も見られるけど。僕がコンピューター室で数学の授業をやると、めちゃくちゃ子供の評価が高い。厳しい先生が「当たり前だよ、コンピューター室に行くだけで子供は喜んでいるんだよ、クーラーがあるし」。もう悔しくて、でもそれ当たっていた。

そういうところも考えられて、長くやられるものをやった方がせっかくやるならいいのではないかな。

事務局（野村）：

ありがとうございます。

三輪委員長：

アドバイザーの玉置先生から貴重な意見をいただきましたので、また事務局で考えていただいて、我々委員にも見せていただいて、一緒に。見捨てるわけではない。

事務局：

よろしく申し上げます。

三輪委員長：

協力はさせていただきたいと思うので、委員の皆さんもできたものをまた一緒に見ていただきたいと思います。よろしかったでしょうか。

続きまして、学習情報端末を利用した学習について、事務局お願いします。

事務局（山田）：

《追加資料説明》

小室委員：

義務教育の段階でという形だが、私の子供も小学校2年生でタブレット持ち帰ってきて色々やっているが、正直私が考えるよりも色々なことができてしまうので、我々がこの段階を、あまり具体的に、あれできてこれできてというようなことを規定するよりも、できることを、その場所で、先生方で考えながら進めたほうが良いと思うので、よくある指標みたいなやつを、細かく細かく立てるみたいなもの、今までいろんなところで、何々力何々力でやってきたが、あまりそれに縛られないほうが、このまま、ある意味、ざっくりとした状態のまま進めたほうが本当の子供達の能力というのは高いと思いますので、教育側からあまり規制し過ぎないほうが、個人的にはいいのかなと思う。

2点目、教員間のスキル差というのが当然あるものだが、実際、それをスキル差でできないようなことを研修でやってもできないと思うので。それよりも、例えば2面のところで、文科省の資料で左上の6番、ステップ3を目指すということでのご提案がありましたので、例えば授業での観察実験の動画とか、そういったものをしていく時に、実際に犬山市さんの方で、今はグーグルアカウントのみの仕様だが、例えばロイロノートというのは、うちの子どもも、奥さんも教員でやっているが、直感的に操作ができて、特に研修もしてなくてもできる。

やはり教員側の、まずは研修しないとできないような状況ではなく、教育構想をぜひご検討いただいて、先生方がより使い易いものというものを導入した上で、教員の指導、研修という部分をとっぴらっても使えるような状態にしていくことが、全体的な意味で、先生方全員が使っていけるような環境になっていくのではないかと思う。

昨年度の段階ではまず端末の導入で、犬山市さんの方で計画していただけましたので、

またさらに、市の発展のためにソフトの方も、ぜひ検討できていたらいいなと考えている。よろしくお願いします。

三輪委員長：

鈴木先生どうですか

鈴木委員：

2番目の教員にはどのようなスキルが必要かということだが、ICTを活用した授業作りの中にも指導者研修会を実施と赤線が引いてあって、今年度も多くの研修会を開いていただき感謝している。しかし、今年度開かれた研修会のほとんどは、自分で触ったり調べたりすることばかりが主な内容で、なかなか自分のスキルが全て伸びたという感じのものがすごく少なかった。

先日フロイデで行われたネットモラルの研修会では、当たり前すぎる内容だったと思うので、こういった研修会を開くなら、本当にものすごく難しい内容の研修会のほうが効果あるのかなと感じる。

クロームブックにある機能をどれも浅く触っていくのではなく、例えば、これはスプレッドシートの、それこそ数式を組んでこういった行動をすればこういったグラフができて、子供はこれだけの操作でみたいな、すごくコアで、すごく細かい内容で研修会を開いていただくと、今の教員の知っている段階のスピードに合った研修会になっていくのかなと感じた。

三輪委員長：

神谷先生、どうですか。

神谷委員：

研修会は、僕は逆に最低限の話し合い活動を、ICTを活用して、潤滑に行うためにはこれが使えますよとか。教科によらずにどの教科でも話し合いの時はこれ、課題提出とか、子供にたくさんの意見を見せたい時はこれ、みたいなのを、パッと見てどの教員も分かるようになっていると。どの先生もやりやすいのかなと。なかなか教科によって、こういう難しいグラフがとか何とかというのは、やりたい人はやると思うが。全員の先生がやるわけではないと思うので。どの授業でも、これは、こういう時はこれを使うといいよ、というのを教えていただくと、多分、多くの方が助かるのかなと。「いや私はICTなんて」という方も、一步パーンと踏み出しやすいのかなと思う。

鈴木委員：

自分の学校だけかもしれないが、こういう研修会に参加される先生は、本当に必要な先生こそ参加できていないのが現実で。結局いつまでたってもちょっと詳しくったり、そういう業務に当たっている先生が行くっていう形で終わっている。現実問題、研修会で教員のスキルを上げていくのはすごく難しい。だから、今、参加している先生たち

のメンバーを頭で思い描いた時に、必要な研修っていうのはすごく当たり前の内容になっている。

三輪委員長：

また、玉木先生に言われそうですが。この辺も、委員会でやっていくべきことなのかもわかりません。小室先生とICT活用研究委員会、校長会の方の委員会のほうでは、そういう実際に授業でどういうふうに生かしていくかということ、広めていく活動をしていかなければいけないという話となっている。これはまたそちらのほうでもやっていきたいと思う。出していただいたもので、「触れる」、「使う」、「活かす」というのは、これはこれでいいと思うが、ここで低学年、中学年、中学校というふうに、決めるのではなく、低学年でも活かす活動はそれなりにできるし、このスパイラルで上がっていくのかなと感じる。

最近、子供達1人一台、情報端末を与えられたことによって、オートマチックな学習はICT機器でいいが、何かマニュアル、例えば字を書くとか、本を読むとか、そういう活動も並行してやっていかないと。今年子供たち、授業のノートをどれぐらい書いたかなと、国語のノート、5、6ページで終わっていないかなど、心配になってきたりしている。やっぱり「不易と流行」という言葉があるが、ICTで伸ばしていく事と、逆にICTではできない、読解力、特に本を読むという、読書するという、字からページをめくって読むという活動は大事にしていきたいなというふうに思う。この委員会でICT活用研究委員会なのにそんな、逆行するようなことになってしまうが、やっぱり、そういうことも現場にいて、大事にしていかないといけないなということを感じている。個人的な意見です。

玉置アドバイザー：

三輪委員長に関連して。言われることに賛成だ。大学生の例でいうと本当に読解力無いなというか、インターネットからそのままの情報を写してくる、読んでない。タイトルが合って一致しているからコピペしてくる。そういう意味では本当の読解力がない。だから、別に本ではなくてもインターネットの情報でも読み取って、これは分からないという問いね、ここは分からないから更に調べてこうという、これを育てないといけないわけで。この間ゼミで、ある語源を調べたら、皆、インターネットに最初に上がってくる、皆同じ。

トップページ、皆、同じアクセスしているから皆同じもので調べている。意味がない。だから、それも広い意味で犬山の読解力、正にそういう点では大事な教育を進めようとされているなと思う。

関連で、今風で言えば、こういうのに欲しい言葉がある。外部的なことでいくと「個別最適な学び」と「協働的な学び」というのは、もう令和の日本型学校教育で、今後ずっと目指そうという、そういうキーワードを入れていかれた方がよりいいかなと。

しかし、当然書いてあります、共同的な仲間と意見をどうこうするとか。個別最適な学びも、これすごく書いてある。こうやって先生方に見ていただきたいのは、検索をこ

れだけしている。個別最適な学びというのは自分で自分が必要な学びを取ってくる。今までは、先生が社会科でも印刷して資料を子供に渡している。限られた情報を渡している訳です。その中で、調べ学習されている訳です。ところが、今はもう自分で必要なものを取っていきける。これが個別最適な学びだから、ある面でこれだけネットアクセスしているというのは、自分で個別最適な学びをやっているというふうに価値づけを子供にしてやるのか、単に検索しているという物の言い方だが。今後、先生の研修もそうだが、そうやって見ていくと、随分すごい事をやっているということを価値づけしていくのは先生です。子供が最近やっているが、これはあなたが必要な情報を自分で選んで、これは使える、使えないと判断している事はすごい仕事をしていると言うのと、単にインターネット見ているなど言うのとは大分違う。その辺りある意味で教員研修として、私はあちこちで感じている。

そういう価値づけをしてあげないと、子供がそんなことを言うわけない。あなたはなかなか調べる検索能力がすごいなんて。価値づけしていくのは先生です。だからその辺りの意識が必要だと。この道具を、関わっていく子供に対して、どう先生が価値づけしていくかってことじゃないと。単に道具を触っているのと、何気なくやっているけど、それを価値づけしてやらないといけないなと思う。

話が変わるが、少し犬山中に関わらせていただいた時、暑い時、最後、運動場で振り返りを子供が書いていた。写真も撮って出したが。「こんなに暑いのに何やっているのか」と聞いたら、「振り返りです、自分のやったことを1時間書くと、今度の目標が生まれる」とずっと答えた。感激しました。この事を結構ネタに使わせてもらっている。それで、体育の先生に「感激しました」と言ったら、やっぱり秘密があると。

時々やっぱり言っている、なんで振り返りしているかという価値づけをしていると言われた。だから、やっぱりあえて喋れるのだなど。僕はすごくいい例を、犬山中で学ばせていただいたが、ある程度そういう子供がやっている事を価値づけしていく、こういう意味あるのだよということをやっていくのは教師の役目で、例えばこういうところへ出すところも、大事な役割じゃないかなということも思った。

事務局（山田）：

いろいろご意見いただきましてありがとうございます。自分もこういうふうにとまとめたのは初めてだったので、やってみて色々見えてくるところもあった。今、色々ご指摘をいただいたように、子供たちの育ちというのは、輪切りできるものではなく、そのスパイラル的という事があるように、色々な子供達がいるので、こちらで、この子は低学年だからここまでとか、そういうふうなやり方ではなく、できる子供たちにはどんどん次の可能性を引き出していきけるような、そういう思いを持って指導していくことが大事だということも思いましたし、そういったこともまた研修を通して、現場の先生方と思いを共有していくことも大切だなと思う。

研修についても色々ご意見いただきありがとうございました。一番は、この研修の意義は何かということをはっきりさせておく事も大事だと思った。せっかく参加していただいた先生が、思っていたのと違うなといった消化不良感を持って帰っていただくこと

にならないように、この研修の目的はどこにあって、どういったことについて検証するのかという事も、明確に打ち出した形で、各校の先生方にどうでしょうかという呼びかけができるように、事務局としても準備を進めていく必要があると思った。

またこれからも委員の皆様は、学校現場の様子を教えてください、より有意義な研修の計画が打ち出せるように考えていきたいのでよろしくお願いします。ありがとうございます。

三輪委員長：

その他、何かありますか。

以上で、議事が終了しました。進行、事務局をお願いします。

事務局（大黒）：

三輪委員長、どうもありがとうございました。最後に滝教育長ご挨拶お願いいたします。

滝教育長：

本日は年度末で大変ご多用の中、委員会にご出席いただくとともに、貴重なご意見を数多く出してください誠にありがとうございます。玉置先生におかれましては、通常のお仕事がお忙しい中で、今日は5分か10分遅れると聞いたが、間に合って来られて、空でも飛んで見えたのかと思った。忙しくて大変申しわけなかった。

隣の中国北京では、冬のオリンピックで熱戦が繰り広げられている状況です。国内では、コロナが6度猛威を振るっており、犬山は連日何十人という新規陽性者が出て依然として収まる気配を見せていないという状況である。こうした中で唯一の救いは、GIGAスクール構想が一気に進んだことなのかという事であると思う。

先日の市の校長会をオンラインで実施したところ、通常よりも早く会を終える事ができたという、いいのか悪いのか、そんな状況が見られた。先生方お1人お1人に子供たちと同じタブレットを配置するという大きな課題は残されてはいるが、体制はある程度整えることができたかなと思う。これもひとえに委員の皆様方のお力添えがあったからだと改めて感謝をしている。

今日、この場の議論で、3点ほど思ったことがある。

一つは、1人1台の端末を配置するにあたって、定例教育委員会でも色々議論してきたが、委員の中には、小学校の低学年の子にタブレットを渡しても使えるのかというような、要は国の施策に対して本当に必要なのかというようなご意見を伺う事もあった。諸外国に比べて、日本の子供達はコンピューターを使う能力がないというか、機会が少ない。だからこそ、小学校の低学年から、コンピューターを操作できるような子供達に育てていく必要があるのではないかと。そういう意味では、GIGAスクール構想については全くの否定的な立場ではなく、やはり小さいうちから使える子供たちに育てたい、そのためにやっぱりこれが必要かなということを感じたところである。

それから二つ目、アンケートのことが出ました。今回の調査は、国の調査に則ったも

のだった。実際にこの知りたい情報、情報を知りたい側と、実際に調査をしていただく側、学校は共通認識に立って調査をすることが大切だと思った。せつかくこの委員会があるので、委員会で質問項目についても協議検討していくことも必要かなと思っている。また玉置先生からも言われたように、アンケートも1回きりで終わりにするのではなく、継続的に調査をしていく事も大切かなと。今後もアンケートを行う機会があるだろうと思うので、ぜひ、この場でアンケートの進め方についても意見交換をしていきたいと思う。最後に、三輪先生が「事務局で考えて」というご発言があったが、いや、現場で考えていただくのが最も適切ではないかなと。おそらく今、お考えを改められて、現場で考えてみようかなという気持ちになっておられると思ったが、この意識のずれが直せたらいいかなと思っている。

3点目、研修会をどうするかについて、3人委員の方が其々全く異なる立場で発言をされたように受けとめた。例えば小室先生は、研修しなくても授業できるようなソフトを使えと。研修しなくては使えないようなソフトでは、そういうようなご意見だったように受けとめたが、もし違っていたらご指摘ください。

鈴木先生は、研修会をやるなら細かい深まりのある、もっと専門的な内容にすべきじゃないかというご意見だったと思う。神谷先生は、こうすればこうなるよというようなもっと分かりやすい研修会のほうがいいのではないかと。

其々3人が異なった意見を持っておられる事がすばらしいなど。どなたが何か仰って、俺もそう思う、俺もそう思うのではなく、其々の立場で、研修会のあり方というのを頭に描いておられる、次回の研修会はぜひ3人に、計画を立てていただいて。3本立てでもいいと思う。

例えば、一日に、三本立てで、この時間帯はこういう・・・、これは小室先生が描いている研修会、それから、真ん中は鈴木先生の考えておられる研修、最後は神谷先生の研修。ぜひ、先生方に研修会の計画を立てていただき、実のある研修会が実施できるのではないかと強く思った。

コンピューターの使用について、随分高い数値で、子供達が使用している事が分かったが、有効な活用という部分については、今後も委員の皆様方のお力添えを賜る事をお願いいたします。

1年間、これが今年度最後のICTの関係の会議になるわけですがけれども、いろいろ先生方にはお世話になりました。今後とも引き続き犬山のICT教育が、一歩でも二歩でも前進をするように、またお力添えを賜ることをお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

大黒課長：

ありがとうございました。それでは、これをもちまして第3回犬山市ICT活用教育研究委員会を閉会とさせていただきます。委員の皆様本日はありがとうございました。